



「黒神尋常小學校埋没ノ惨状景」（大正3年2月15日撮影・鹿児島県立博物館所蔵）

人物の背後に写っているのが小学校の校舎です。窓の上まで灰に埋まり、軒先が地面すぐ上にあるのが見てとれます。写真中央手前のわずかに顔をのぞかせているのが黒神の埋没鳥居です。改めて降灰のすごさがわかります。

県立博物館と桜島

次長 有元 昭一

先日、県内に住む20代から30代の方々11人に「県外客に紹介したい鹿児島県自然」について尋ねてみました。本県は南北約600kmと広く、世界自然遺産の屋久島や、同遺産の登録に向けて準備を進めている奄美群島などいろいろな県内各地の特徴ある自然を紹介してくれるだろうと予想していましたが、ほとんどの方の答えが「桜島」でした。自然というよりも観光といったイメージが強かったのかもしれませんが、改めて県民にとって桜島は身近なものであり、鹿児島県のシンボルなのだと感じました。

ところで、県立博物館と桜島との関係が深いことを御存知でしょうか。桜島が、大正3年1月12日に大噴火をしてから、来年で100周年を迎えます。この大噴火の貴重な資料を残そうと大正3年4月県立図書館内に博物部常

任委員会を設置されたのが、当博物館の始まりです。現在でも2階「鹿児島県大地コーナー」では、桜島の地形模型や大型映像を活用して火山の歴史や人との関わりなどを紹介しています。

また、県外からの来館者には桜島から取り寄せた火山灰を小さな袋に詰めたものを、来館記念品として無料でお配りしていますが、皆さんに大変喜ばれています。

さて、今年6月からは、特別企画展「桜島火山100年の軌跡」を開催する予定です。これまでの噴火の歴史や最新の火山研究などを始め、防災対策についても紹介します。日頃、何気なく眺めている「桜島」の新しい発見があるかもしれません。皆様の御来館をお待ちしております。

「豊かな自然遺産」収集保存事業

「豊かな自然遺産」収集保存事業では、鹿児島県の貴重な自然を記録に残すことを目的として、博物館全職員と館外協力員が共同で取り組んでいます。

今年度は、県本土では大隅半島の高隈山・肝属山地を精力的に調査し、島嶼部では隆起珊瑚礁でできた喜界島、沖永良部島を調査しました。また、鹿児島県の特徴的な場所として口之永良部島、三島村の竹島・硫黄島、トカラ列島の中之島・宝島などを調べました。今回はその調査成果の一部についてお知らせします。

植 物

高隈山や肝属山地では、ケヒエスゲやコイワカンスゲ、ウスバミヤマカンスゲなどスゲの仲間を中心に採集を行いました。



ケヒエスゲ

沖永良部島では、アオバナハイノキやボウコツルマメ、カレンコウアミシダやタカワラビなど沖永良部島を北限とする植物を中心に採集を行いました。



ボウコツルマメ

喜界島では、ツルザンショウやナツフジ、海岸性のミズガンピやイソマツなどを採集しました。昨年の台風の影響で、砂浜が荒れており、ツキイゲの群落は規模が小さくなりました。



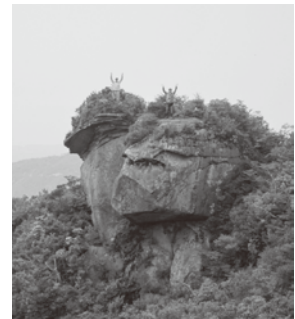
ツキイゲ

以前の記録をたどりながら、現在の分布状況や生育数などを確認しているところです。今後も継続していきます。

地 質

大隅半島の高隈山や肝属山地では、花こう岩や接触部のホルンフェルスなどを収集しました。

また、喜界島や沖永良部島では、琉球石灰岩などの岩石を収集しました。

花こう岩の露頭（荒西山^{あらせやま}）

昆 虫

企画展「大隅の自然」に合わせ、タイワンシオカラトンボやオオスミヒゲナガカミキリを調査・撮影・採集し、展示しました。



タイワンシオカラトンボ

宝島、平島ではヒメシルビアシジミを確認し、トカラ列島内での北限がどこになるのか、調査を続けています。硫黄島ではタイワンツバメシジミが確認できませんでしたが、食草であるシバハギが生育していることや幼虫の越冬できる環境がそろっており、再び時期を変えて調査する必要があります。



ヒメシルビアシジミ

動 物

サンショウウオの仲間の分布調査を行いました。毎年調査している高隈山の大饗柄岳^{おおのがらだけ}では、確認することができませんでした。

また、今年度は調査範囲を広げ、猿ヶ城溪谷付近や肝属山地など、沢沿いで調査を行い、肝属山地では、数カ所でオオダイガハラサンショウウオを確認できました。県内のサンショウウオの調査仲間と共に今後も継続して生息数や分布地の調査を行っていきます。

17年ぶりに開催 喜界島移動博物館

2012年11月9日～12日までの間、喜界町教育委員会と共催で、「博物館がやってきたin喜界島」を開催しました。喜界島での移動博物館は、平成7年以来17年ぶりの開催となりました。

○展示活動

メイン会場の中央公民館には、はく製や標本、パネルなど約5,600点の資料を展示しました。イノシシを間近に見てびっくりする子どもがいました。「本物」はやはり、迫力があつたようです。



標本に夢中

○自然紹介授業

当館職員が地元の学校に出向き、喜界島の動植物や地質について出前授業を行いました。喜界小での動物の授業では、身近な動物や喜界島に入ってきた動物についての説明をし、その後、外来魚のセラピアを見たり、シマヘビをさわったりする活動をしました。ヘビを見かけることは少ないためか、子どもたちは興奮気味でした。



シマヘビをさわったよ

その他、池治海岸では、動植物や地質の観察会を行い、喜界町図書館では、喜界島の自然についての講演会を行いました。

中でも講演会に先立って喜界中・喜界高校の生徒の「喜界島に侵入した昆虫」についての研究発表があり、非常に好評でした。

教育委員会をはじめ役場の方々、各学校の先生方、ボランティアで参加してくれた喜界高校の生徒の皆さんの御協力のおかげで、利用者数は、延べ2,700人にもなり大盛況でした。

来年度も移動博物館をとおして、県民の方々、特に未来を担う子どもたちに、鹿児島豊かな自然について紹介していきたいと考えます。

継続は力なり！！ フィールドワーカー養成講座

学校や教育機関などの先生方を対象とした「フィールドワーカー養成講座」が始まって早6年が過ぎようとしています。土・日曜日を利用し、5つの分野に分かれて、博物館職員とともに県内各地の自然を調べたり、授業に活かせるネタを探したりしています。

☆天文分野

星座の観察はもちろんですが、金環日食や金星の太陽面通過などの天文現象についても観察を行いました。

☆地質分野

今年の干支にちなんで「蛇紋岩じょうもん」を探したり、獅子島の化石について調査したりしました。

☆動物分野

毎年行っているサンショウウオの分布調査を行いました。また、ツルの羽数調査見学やバードウォッチングなど、鳥類についても活動を広げています。

☆昆虫分野

霧島市隼人町の沖かみつくりに浮かぶ神造島のアリの調査を行いました。5種のアリが生息しており、調べた結果は、研究誌に投稿する予定です。



アリの調査

☆植物分野

干潟や海岸性の植物や、草原性の植物の観察を行いました。また、恒例のキイレツチトリモチの個体調査も行いました。

講座のモットーは「とにかく続けること」。焦らず少しずつ、でも歩みを止めないことが大切だと考えます。続けることによって、少しずつわかってきた鹿児島の自然の豊かさ、そしておもしろさを是非、子どもたちに伝えてくださればと願っています。初めての方、自然に関わることが好きな方大歓迎です。私たちといっしょに鹿児島の自然を調べて見ませんか。

企画コーナー紹介 (宝山ホール)

桜島大正噴火 100 周年記念
大正噴火写真展を開催

別館宝山ホール4階では、現在、桜島大正噴火100周年のプレ企画として「桜島大正噴火写真展」を開催しています。

県立博物館が所蔵している桜島大正噴火の約250点の資料の中から選び出した写真を一堂に展示しています。大正噴火前の桜島の様子をはじめ、噴火直後の様子、降灰や溶岩流の状況、住民の避難や救護の様子など貴重な記録が展示されています。これらの資料から桜島の驚異と大噴火の教訓を感じていただく機会にさせていただければと考えています。6月から本館企画展示室で開催される特別企画展「桜島火山100年の軌跡」とあわせて、是非一度ご覧ください。



ボランティア大募集!

県立博物館にはボランティアの組織があります。現在、ボランティアの方々は、中学生や高校生を対象とした「中・高校生ボランティア」、大学生や一般の方々を対象とした「博物館友の会」に所属し、それぞれの組織の中で、ご自分の興味・関心にあわせた活動を行っています。

中でも5月19日(日)に行う「博物館まつり」や、土曜日・日曜日の楽しい実験・天文工作等のお手伝い、貴重な標本や資料の整理、小・中学生の夏休み理科作品展などで、ボランティアの方々が活躍! 博物館の力強いサポーターとして、欠かすことのできない存在となっています。

今回、平成25年度のボランティアを大募集いたします。自然に興味を持っていらっしゃる方、こどもが大好きな方、博物館でボランティアをしてみませんか。積極的なご参加をお待ち申し上げております。

学芸室の窓から

今日もしゃべります!!

博物館にも名物職員と呼ばれる方がおります。前主任学芸主事のT先生もその一人。今年3月をもってめでたく定年退職を迎えられますが、話をさせると長いこと長いこと。当時のS館長から「話は短く」と指導を受けても何のその。O主査から「野外観察会は、1時間ですからね。時間どおりお願いします。」と言われてもしゃべりまくって1時間オーバー。しゃべり足りない気が済まないらしいのですが、さすがに注意されると「ちょっと力が入りすぎて…」と苦しい言い訳。

この長い話はもちろん、いろいろな調査・観察会にさんざんつきあわされてきたのが、植物担当のO学芸主事。博物館で5年間、部下として一緒に仕事をしてきました。

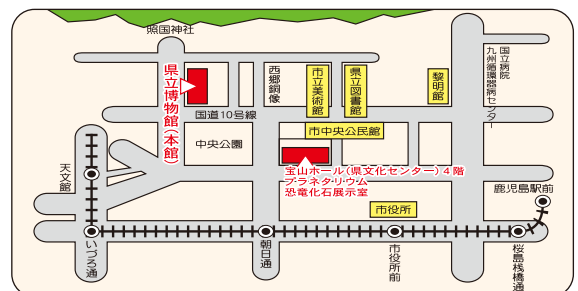
調査に行くと、急峻な崖を登らせられたり、川で腰までつかりながら、植物を採集させられたりとよく危険な目に遭わされていました。登山道を歩くことなんてほとんどなく、道なき道を、藪こぎをしながら進み、何度となく迷いそうになりながら調査を行っていました。「T先生の相手はOさんしかできないからね。」と先輩学芸主事の無責任な発言を受けながら、健気にお世話役としてがんばっています。

いろいろな逸話を残したT先生ですが、長年県内の植物を調べてきたので、これからも変わらぬ情熱で、県内各地をとびまわることでしょう。そして、鹿児島県の自然の豊かさやおもしろさをいろいろな機会に語っていくことは間違いないでしょう。O学芸主事の苦行も、しばらく続きそうです。



ヤクタンゴヨウの大木と

●鹿博だより 編集・発行 鹿児島県立博物館
〒892-0853 鹿児島市城山町1番1号
TEL 099-223-6050 FAX 099-223-6080



ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/hakubutsukan/>